

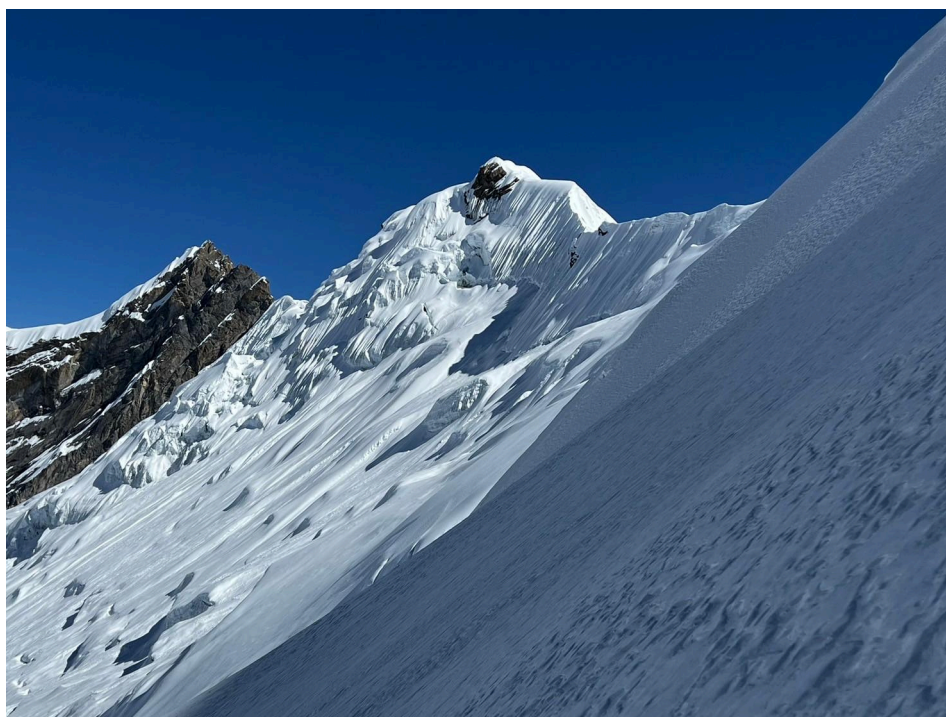
日本山岳会学生部海外遠征隊

ネパール ヒマラヤ

プンギ(6524m)

登山計画書 2024

NEPAL Himalaya
Phungi(6524m) Exp 2024



主催 公益社団法人日本山岳会学生部

後援 公益社団法人日本山岳会／青山学院大学体育

会山岳部／中央大学山岳部／東京大学運動会

スキー山岳部／立教大学体育会山岳部

日本山岳会学生部
ネパールヒマラヤ NEPAL Himalaya
プンギ登山隊 2024 Phungi EXP 2024

■遠征名称(プロジェクト名)

プンギ遠征2024 英語) Phungi Expedition 2024

■隊の名称

日本山岳会学生部プンギ遠征隊

■派遣母体

公益社団法人日本山岳会／青山学院大学体育会山岳部／中央大学山岳部／東京大学
運動会スキー山岳部／立教大学体育会山岳部

■目標

プンギ Phungi (6524m)初登頂

■目的

我々遠征隊は以下2つのことを目的に掲げる。

①本来の登山の形の体現

近年様々な技術が発展したことで、登山はみじかなアクティビティに変容してきた。行った事のない山/ルートでも写真付きの詳細な情報を得ることができ、GPSは自分の居場所を正確に確実に教えてくれる。それは我々の活動をより安全にし、自然という不確定な環境下での確定要素を増やした。

しかし登山のもつ本来の側面には、未知なる山・場所・ルートを既知なるものへと変える探検的精神を含んだ営みも存在しているのではないだろうか。探検的精神を含んだ登山には、人類の境界を増やし、またその行為を通して人間の可能性を広げるという意味で意義があり、いつの時代にも必要な営みだと考える。

我々は未踏峰を登ることで、この便利な現代に於いて、本来の登山の形を体現したいと強く思う。

②大学山岳部の存在とその活動を広めたい

数十年前に存在した大学山岳部全盛期の時代は過去のこととなり、大学山岳部はその存在や活動を世間に知られていないという現状がある。年々部員数は減少し、廃部となる大学も存在する。一般の人にもワンダーフォーゲル部や登山部と一緒にたにされ、その活動の詳細は知られていない。

今回の遠征には4つの大学山岳部からメンバーが集まっている。この遠征を通して、大学山岳部の活動や文化、この時代にも山に青春を捧げる若者がいることを世間に知らせることができたら嬉しい。まず山岳部を認知してもらうことは、この業界を盛り上げていく第一歩であり、またそれらを通して、次の世代が仲間として入部したり、後輩達を応援する人が増えたら、この遠征のもう一つの大きな意義となりえるのではないかと考える。

■隊の特徴/強み

我々がそれぞれ所属する大学山岳部は、これまでの活動でもあくまでその山を未踏に見立てて登るという行為をしてきた。合宿の立案から始まり、偵察、そのルートの必要技術要素の抽出、技術の習得、そして必要十分以上の荷物を持った実践とその後の反省。これらのサイクルは、便利な技術があれば殆どが省けるだろう。しかし、その山が未踏なのだとしたら必要なサイクルであった。この4年間を通し、我々が培ってきた技術と経験。そして体力と精神力を活かしてプンギに挑戦したい。また、学生であることから遠征期間を長く取る事が可能である。高所順応に多くん時間をさき、アタック機会を3回は確保している。

■遠征期間

2024年9月11日～11月10日(60日間) ポストモンスーン

■行程(ヒマラヤキャンプを参考に)

0日目 成田発(9月11日)

1日目 カトマンズ到着

2～4日目 手続き・準備

【キャラバン】

5日目 カトマンズ出発→ベシサハール 823m(車移動)

6日目 ベシハサール→コト 2610m(車移動)

7日目 コト→メタ 3560mキャラバン

8日目 メタ→キャン 3800m

9日目 キャン→プーガオン 4100m(最終の村)

10日目 順応日

11日目 プーガオン→BC 4700m 設置→プーガオン

【登山期間】

12～51日目 計40日間 (9月23日～11月1日)

【バックキャラバン】

52日目 ラトナチュリ BC→プーガオン

53日目 プーガオン→メタ

54日目 メタ→コト

55日目 コト→ベシサハール

56日目 ベシサハール→カトマンズ

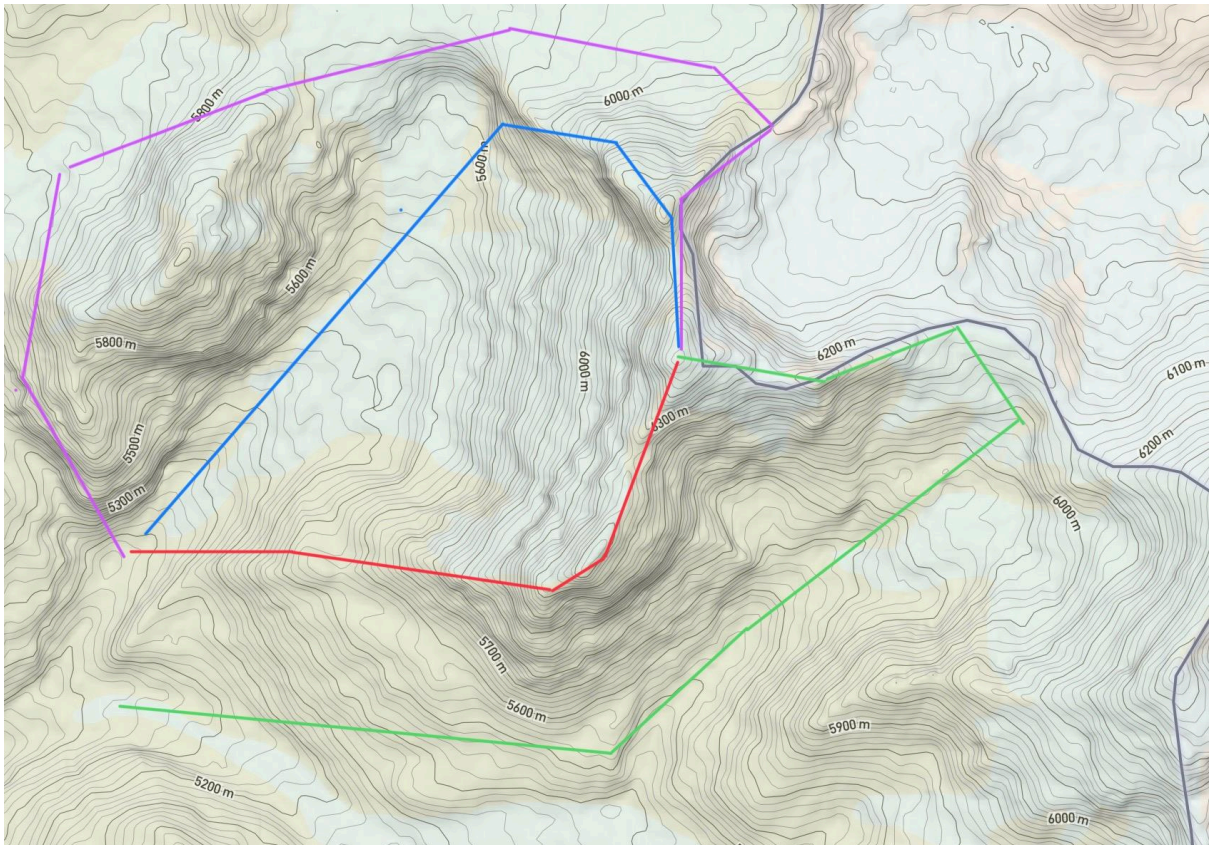
57～59日目 片付け・手続き・出国準備

60日目 カトマンズ→成田 遠征期間終了

日本帰国

【遠征合計日数68日間】

■タクティクス



大まかに4つの尾根が存在

1. 南峰西尾根(赤, 1400↑)

ルートとしては最も分かりやすい。

- 取り付きから山頂まで1400mの標高差がある。(稜線上での1ピバークは最低でも必要になる。)
- 特に下部では、リッジ上に雪がついていない可能性がある。
- 稜線上に雪庇が発達している可能性がある。

2. 北西尾根(青, 400↑)

氷河を詰め、アイスフォール帯を通過する。その後北西尾根へ乗る。

- ルートの最短距離。
- アイスフォール帯が通過可能かどうかは不明。

3. 北東尾根(ピンク, 300↑)

氷河を歩き、北東尾根に乗る。

- 北東尾根はなだらかかつ短い。
 - 氷河歩きがほとんど。登っても楽しくないかもしれない。

4. 東尾根(緑, 300↑)

- 尾根の取り付きまでのアイスフォール帯が難しそう。

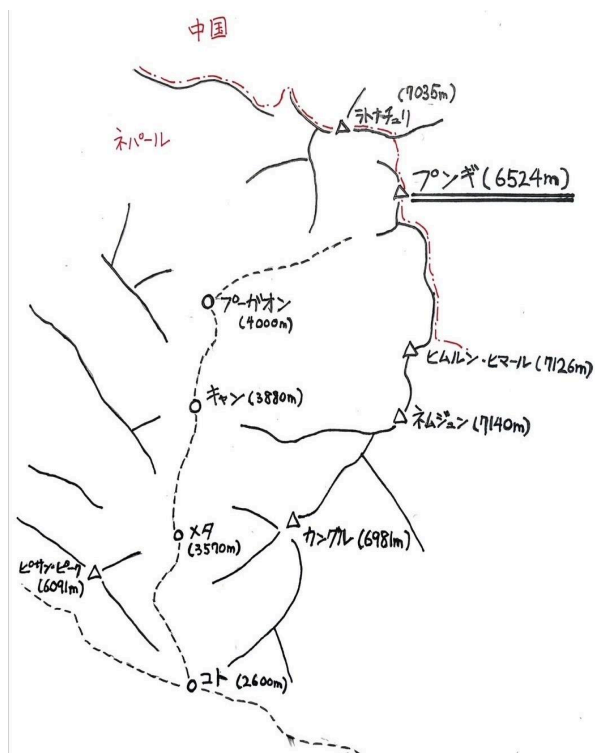
まず北峰を通る事となる北西尾根と東尾根であるが、北峰は北東側の斜面が切れ落ちておりかなり悪いという情報がある為好ましくない。ヒマラヤキャンプより北峰と山頂のコルにそのまま突き上げるルートがいけそうという情報もあるが、1dayでサミットプッシュする必要があることと、プンギ西面側に存在するセラックが崩壊すると巻き込まれる可能性があるため、あくまで第2プランとなる。

1番可能性高いのが、南峰西尾根ルートである。

本ルートは、西尾根末端5000m地点にC2を張り、尾根上5500mのコルにABC。6000mの南峰～山頂の尾根か南峰直下にHCを作って山頂へアタックする行程となる。

写真ではまず南峰に上がる際に急斜面が確認でき、南峰～山頂区間の稜線と山頂直下も急斜面になっている。南峰～山頂はまだ誰も見た事がないが、北峰が切れ落ちている事からナイフリッジとなっている可能性は高いと思われる。

概念図



■予算(見積り) 2024/4/18 更新 (為替による変動あり)

総予算 約495～521万円 (1\$ 145円～155円計算) ※1人当たり 約99～104万円

トレッキング会社費用290～310万円

【全行程に置ける交通費、登山料、特定地域入域許可取得手続き料、ガイド・スタッフの費用(給料、保険、ヘリ保険、装備)、ベースキャンプ装備、リエゾンオフィサー費用、ポーター給料、手数料】

生活費 15～16万円

【現地宿泊費(ロッジ・ホテル)、現地食費、燃料、SIM、輸送費】

国内経費 180万円

【航空券、山岳保険、ネパールビザ代、通信費、ワクチン、装備、医療品】

その他 10～15万円

【チップ、雑費】

■現地エージェント

Janak Chuli Treks Pvt Ltd.

代表: Ram Tamang

住所: Budhanilakantha-12Kapan, Kathmandu, Nepal

Tel : +977-1-4820391

Mobile: 977-9841696676

Email: janakchulitreks@gmail.com

■連絡先

井之上巧磨

Mail: inoueta90@gmail.com

Tell: 080-3200-1683

■隊員名簿

名前:井之上 巧磨 (いのうえ たくま)

役職: 総隊長、食料サブ

所属:青山学院大学体育会山岳部(部内学年4年 主将)

実績:上高地-親不知(無雪)、屏風岩雲稜ルート(無雪)、錫杖岳 注文/見張り棟(無雪)、
マイモーズの悪場、モチコシ沢、中崎尾根末端-槍ヶ岳(12月)、阿弥陀北西稜



名前:尾高 涼哉 (おだか りょうや)

役職:登攀隊長、装備サブ

所属:東京大学運動会スキー山岳部(部内学年4年 主将)

実績:屏風岩雲稜ルート(無雪)、錫杖岳 注文/見張り棟(無雪)、河又 小作人5.11cRP、
南ア主稜線縦走(2月-3月)、南岳西尾根(12月)、錫杖岳3ルンゼ(1月)



名前:横道 文哉 (よこみち ふみや)

役職:渉外(輸送)、会計(海外)、記録(メイン)

所属:立教大学体育会山岳部(部内学年4年 副将)

実績:槍ヶ岳西稜(無雪)、屏風岩雲稜ルート(無雪)、槍ヶ岳中崎尾根(12月)、
Ramadung Peak(5925m) 5555m敗退、裏同心レンゼ(1月)



名前:中沢 将大(なかざわ まさひろ)

役職: 装備全般

所属:立教大学体育会山岳部(部内学年4年 主将)

実績:劔岳 源次郎/八ツ峰上半(無雪)、北ア縦走 劔岳-親不知/劔岳-蝶ヶ岳(無雪)、
錫杖岳 注文の多い料理店(無雪)、劔岳 早月尾根(12月、2月)、旭岳東稜(2月)



名前:芦沢 太陽 (あしざわ たいよう)

役職:会計(保険、国内)

所属:中央大学山岳部(部内学年3年 主将)

実績:前穂北尾根(11月)、常念山脈 蝶ヶ岳-燕岳(3月)、爺ヶ岳南尾根-鹿島槍ヶ岳(3月)
裏同心ルンゼ(1月)、南沢小滝(1月)、早月尾根ACまで(2月)



■トレーニング実践

別紙参照